資料６－１

第５回Ｇ空間×ＩＣＴ推進会議　議事要旨

１．日時
平成２５年６月２５日（火）１７：３０～１９：００

２．場所
総務省８階第一特別会議室

３．出席者
（１）構成員
柴崎座長、秋本構成員、河野氏（生貝構成員代理）、稲月構成員、猪瀬構成員、岩崎構成員、岡田構成員、梶浦構成員、河口構成員、菊池構成員、木村構成員、國領構成員、西山氏（嶋谷構成員代理）、島村構成員、塚田構成員、辻田構成員、小川氏（堤構成員代理）、橋本構成員、田中氏（古田構成員代理）、牧園構成員、松崎構成員、当山氏（森構成員代理）、吉田構成員、目黒構成員
（２）オブザーバー
内閣官房副長官補室、内閣官房情報通信技術（IT）総合戦略室、内閣府政策統括官（科学技術政策・イノベーション担当）付、内閣府政策統括官（防災担当）付、内閣府宇宙戦略室、警察庁情報通信局、文部科学省研究開発局、厚生労働省政策統括官付、農林水産省大臣官房統計部、経済産業省商務情報政策局、経済産業省製造産業局、国土交通省大臣官房、国土交通省国土政策局、国土交通省国土地理院、環境省大臣官房、防衛省防衛政策局
（３）総務省
新藤総務大臣、橘総務大臣政務官、福岡官房総括審議官（広報、政策企画（主）担当）、久保田官房総括審議官（国際担当）、関官房地域力創造審議官、桜井情報通信国際戦略局長、吉崎情報流通行政局長、吉良総合通信基盤局長、須江統計局長、阪本政策統括官（情報通信担当）、市橋消防庁次長、渡辺情報通信政策課長

４．議事要旨
（１）新藤総務大臣挨拶
○　新藤総務大臣より以下のとおり挨拶があった。
・　Ｇ空間については、安倍内閣がとりまとめた「日本再興戦略」や「世界最先端ＩＴ国家創造」宣言」においても複数箇所言及。Ｇ空間が政府内でもオーソライズされてきており、これまで以上にＧ空間に帯する期待が拡大。
・　「Ｇ空間×ＩＣＴ推進会議」の提言について、スピード感をもって具体的に実行するため、構成員の協力を得て、「Ｇ空間×ＩＣＴ推進会議」を継続することを希望。

（２）柴崎座長よりＧ空間×ＩＣＴ推進会議報告書案の説明

○　柴崎座長よりＧ空間×ＩＣＴ推進会議とりまとめ案について資料５－３、５－４に基づき説明が行われた。

（３）意見交換

○　構成員より意見交換がなされた。主な発言は以下のとおり。

【目黒構成員】

・　今後、報告書のプロジェクトを実施するに当たって、いろいろな課題が出てくると思うが、それらの課題を円滑に解決すべく、「Ｇ空間×ＩＣＴ推進会議」を継続することが適当ではないか。

【島村構成員】

・　我が国の経済活性化等を図るため、報告書のプロジェクトについて、着実に、２０１５年度末までの集中開発期間、２０１７年度までの社会実装期間、その後の普及及び横展開を進めることが重要ではないか。

・　推進会議を一過性のものにするのではなくて、国、自治体と連携して、Ｇ空間の本来持っている潜在力を活用する成功モデルを提示すべく努力することが重要ではないか。

【秋本構成員】

・　Ｇ空間情報の官民連携のオープンなプラットフォームを構築することは必要であるが、持続性を確保することが重要ではないか。

・　また、オープンなプラットフォームの構築に当たっては、協業する領域と、競走する領域を切り分けて議論することが重要ではないか。

【橋本構成員】

・　「Ｇ空間シティ」に大変興味があるが、「Ｇ空間シティ」を実現するためには、実証実験を行い、技術的な課題や経済的な課題等を洗い出すことが重要ではないか。

【嶋谷構成員代理（西山氏）】

・　分散するＧ空間情報がインターワークして活用する仕組を開発することが重要ではないか。

・　「Ｇ空間シティ」等の実証実験においては、国内外の展開、標準化に向けた取組が必要ではないか。

【岡田構成員】

・　新藤大臣から実践とスピードという大変力強いお言葉をいただきました。新藤大臣には、産学官の力を合わせて、１プラス１プラス１が４にも、５にも、１０

にもなるように引っ張っていただいたのではないか。

・　今後の進め方について、まず国と地方、両方含めた行政がどんどん進んでいくというような姿勢を示し、民間が驚くぐらいのスピードで進んで、民間企業の方々が焦って、追いつけ、追い越せというぐらいのスピードを確保していくのが重要ではないか。

【松崎構成員】

・　報告書の提言を実現するためには、市町村が、まず足並みをそろわないと絵に描いた餅になってしまうおそれがあるため、総務省がリーダーシップを発揮して、まずは都道府県に強く働きかけることが重要ではないか。

・　企業間競争という観点も理解できるが、投資の効率化のため、できるだけ汎用化する取組を進めるべきではないか。

【堤構成員代理（小川氏）】

・　Ｇ空間情報のオープンプラットフォームをより発展させて、皆が使いやすいものにしていくことが重要ではないか。

・　こういった新しいサービスとか産業を広めていくには、このプラットフォームを非常に使いやすいものにして汎用的にしていく必要があるのではないか。具体的には、測位方法の共通化、データ形式の標準化等が必要ではないか。

・　測位精度向上のため、衛星による測位技術をもっと磨く必要があると考えておりまして、測位にかかわる地上設備などのインフラ整備等への支援を継続することが必要ではないか。

【猪瀬構成員】

・　３つの具体的なプロジェクトの中でプラットフォームをつくりながら、平時はＧ空間シティで地域の活性化とか、さまざまな住民の方に享受できるような形をして、平時ではない、非定常の状況では防災システムという観点でさまざまな仕組みをつくるということで、平時と非定常が組み合わせた形でスパイラルアップしていくような形が重要ではないか。

・　プラットフォームの構築に当たり、公益事業者と自治体さんが連携する場合でも、公益事業者もさまざまな業態があるので、是非、「Ｇ空間×ＩＣＴ推進会議」を継続することが有効ではないか。

【古田構成員代理（田中氏）】

・　地図情報等については、県土の情報は県が管理すべきところ、市町村が管理すべきところ、国が管理すべきところと個々に管理されているが、Ｇ空間情報のプラットフォームの横串を利用して効率的な行政ができるよう取り組むことが重要ではないか。

【辻田構成員】

・　新藤大臣も先ほどおっしゃったように、実践とスピード、特にスピード感をもって実現することが非常に重要ではないか。

【塚田構成員】

・　Ｇ空間情報と放送との関係で考えると、情報を共有することが重要。これまでも公共情報コモンズなどによって自治体とか防災機関、それから公共機関が持っている情報をできるだけ共用してきているが、今後、Ｇ空間情報の高精度化とか、それからビッグデータ、これもリアルタイムで解析等によって、視聴者等国民の安全安心を守るために役立つものとすることが重要ではないか。

【木村構成員】

・　緊急災害時における避難であるとか被害の予測等、高度化した情報をどういった形で伝えていくのか、あるいはどういった媒体を使うのか、放送だけでなく通信とも連携する形でやっていかなくてはいけないと思う。報道にかかわる部分については放送事業者も勉強して、表現方法等を研究することが必要ではないか。

【稲月構成員】

・　２０２０年度の６２兆円の市場規模を実現するためには、今後の推進施策が非常に重要であり、強力なリーダーシップをとっていただけるような体制づくりが必要ではないか。
・　法令等についても、地方公共団体の地理空間情報の利用促進の観点から、必要な見直しを行うことが重要ではないか。

【吉田構成員】

・　報告書のプロジェクトが実現すれば、地理空間情報活用推進基本法の趣旨に則った世界最先端のＧ空間社会が実現すると考えられるが、加速、推進することが必要ではないか。
・　スピード感を持って、報告書のプロジェクトを実現するためには、総務省だけでなく、産業界、あるいは学会、政府、政治が一緒となる体制の検討が必要ではないか。

【河口構成員】

・　コード・フォー・ジャパンというのは、実際のソフトウエア開発者が自治体とか政府に入り込んでソフトウエアをつくっていくものであるが、ボランティアの力だけじゃなくて、実際のプログラマの力をかりましょうというものであり、このような取組を政府が応援することが重要ではないか。
・　災害に当たっては屋内の構造情報が重要であるが、例えば、米国オバマ大統領が述べているように、燃えているビルの情報を消防士の手元のハンドヘルドに落

とせるような世界をつくるような取組を行うことが重要ではないか。

【梶浦構成員】

・　あるインシデントがあったとしたら、それ、いつ起きたのか、どこで起きたのかというのは、大概のものには書面には記載されているが、デジタルドキュメントになってくると、そういうものの位置の情報が抜けているとか、あるいは共通のコードで書かれていない等の問題により、情報が使えない、あるいは検索しても出てこないという問題がある。このため、総務省に限らず、各府省、あるいは自治体、民間も含めて、インシデントとか、ログとか、そういうものには位置情報を加えてつけるというようなことを議論することが重要ではないか。

【牧園構成員】

・　全ての関係各者、有識者、あともう一つ大事なのはリーダーシップ等がないと、先ほどあった実践、スピードというところにつながらないので、もっとこの場を盛り上げていく必要ではないか。

【生貝構成員代理（河野氏）】

・　ビッグデータビジネスをつくっていく上で、まさにこのＧ空間オープンデータ・プラットフォームが様々なＧ空間情報を提供するようにすることが重要ではないか。そのためにも、官民一丸となって取り組むことが必要ではないか。

【森構成員代理（当山氏）】

・　Ｇ空間及びＩＣＴは、住民サービスの向上のために利活用することが重要であるが、「レシピ」、Ｇ空間のいろいろな活用方法のレシピというものを充実させることが必要ではないか。

【岩崎構成員】

・　災害時において、移動通信事業者だけでサービスを回復することは不可能であり、電力事業者等ライフライン事業者と連携することが重要であるが、関連する情報が、こういったオープンデータベースのプラットフォームの中でうまく統合するようにすることが重要ではないか。

【菊池構成員】

・　リアルとバーチャルの行動履歴がどんどん蓄積してきているところ、そのような情報とオープンデータ・プラットフォームの情報が連携できれば、新サービスの開発等につながるためこととなるのではないか。

【國領構成員】

・　モバイルだけじゃなくて、クラウドとモバイルという組み合わせが出てきたと

ころで、これに位置情報が加わると、ほんとうに強力な付加価値がつけられるタイミングが来ており、ちょうど一気に畳みかけるタイミングではないか。

【柴崎座長】

・　推進体制については、継続のうえ、これまで以上に盛り上げることが重要ではないか。
・　プラットフォームにおいては、ある種の汎用化、標準化、国際化ということが重要ではないか。特に海外との関係では、合意形成は最初から声をかけて根回ししておくのが国際的にもとても重要ではないか。
・　実践とスピードについて、大臣にもおっしゃっていただきましたが、やはり、こういう話を進めるに当たっては、事前に想定している課題だけでは必ず進まずに、やってみると新しい課題、あるいは逆に言えば、もっとおもしろい内容、あるいは役に立つことは出てくるので、とにかく進めてみて、課題が出たら、その都度、それに対してどう対応するかということをやっていくということが重要ではないか。また、ユーザーの方には、何がいつできるかということを明示しながら、進めていくことが重要ではないか。

〇新藤大臣から以下のとおり、まとめの挨拶があった。

・　「Ｇ空間×ＩＣＴ推進会議」を戦略的に継続することが必要。
・　今回の報告書の肝は、オープンデータ・プラットフォームを構築することである。政府として早くつくらなければならず、東日本の大震災で新しいまちづくりが大量に進む中で、まず、そのデータを取り込むことがとても重要。
・　Ｇ空間シティの実証について、地域活性化という観点から、自治体でやりたい人もたくさんいるが、自治体が動くこととなれば、我々も財政的な支援も行う。我々も、来年度の予算要求の中に、これをぜひ反映させていきたい。
・　データ形式の標準化については、必ずやらなければいけない。オープンデータについては、既に政府として取り組もうということとなっているが、実践例として、この「Ｇ空間×」でやりましょうかと、こういう話しかけ方ができるんじゃないかなと考えている。
・　海外展開については、防災システム等、日本が開発した技術によって世界に貢献することが重要である。世界の人たちにとって有益なものになり、かつ、それは我々の経済を世界に入れ、世界の経済を日本に持ってくると、こういう取組が重要。その大きな国の戦略の有効な１つがＧ空間になると認識。

以　上